

# 令和2年度 東京都立日野台高等学校 学校経営計画

## 1 目指す学校像

「叡知・情操・健康」を教育目標に掲げ、生徒が高いレベルの文武両道を実践し、より高い目標を自らに課し、その達成に邁進することを通じて、グローバル社会において臆することなく自分の考えを述べることのできる人間を育成する。

- (1) 本校及び本校生徒に期待される学校像・生徒像を常に目指し、教育活動において生徒一人一人を本当に大切にできる学校
- (2) 生徒と教員の信頼関係に基づき、生徒の教科等に対する興味・関心を喚起する授業が行われ、学校行事・生徒会活動・部活動が生徒の主体性により行われる学校
- (3) 教職員が常に自己の専門教科や担当業務等に関する研鑽を怠らず、業務遂行に当たっては互いに助け合って、よりよい学校づくりに励むことのできる学校
- (4) 生徒の進路希望を学校全体で支援して、その実現を図るとともに、生徒・保護者・教職員・地域の人々が誇りにできる学校

## 2 中期的目標と方策

### (1) 学習指導の充実

「進学指導推進校」として都民に期待される進学実績を一層向上させる。授業改善を目的とした校内研修会等により、授業の質の向上を図るとともに、補習・講習の充実、家庭学習の充実を図る。

### (2) 進路指導の充実

キャリア教育の全体計画を策定し、その充実を図るとともに、これまで蓄積したデータに基づく3年間を見通した指導を実践する。

### (3) 生活指導の充実

「日野台高校生活スタンダード」を様々な場面で生徒に提示し、生徒自らが生活を律することができるようにする。また、活発に行われている学校行事・部活動を維持発展させ、心身の練磨を図るとともに、SNSの適切な利用等時間を有効活用する能力を育成し、けじめのある学校生活を送らせる指導を徹底する。

### (4) 広報活動の充実

本校の特色ある教育活動について、最新の情報をホームページやパンフレット等で積極的に提供する。また、学習塾訪問や説明会を行う等、広く効果的に広報活動を行う。

### (5) 環境・安全・健康に配慮した教育の展開

生徒の心身の健康及び体力の向上を促進させるための環境整備を図る。学校生活の安全確保に配慮した学校生活の送り方について適切に指導する。

防災教育については、生徒とともに企画立案し災害発生時の体制を整備する。

### (6) 特色ある教育の展開

教科や総合的な学習の時間・総合的な探究の時間、特別活動において、国際理解教育、オリンピック・パラリンピック教育及び防災教育に関連する指導を展開するとともに、「英語教育推進校」として、より専門的かつ継続的な活動を実施する。

### 3 今年度の取組目標と方策

新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、新しい教育活動に積極的に取組み、生徒に「挑む心」を醸成し、「考えて実行する」態度を育成するために次の教育活動を行う。

#### (1)教育活動の目標と方策

##### ①学習指導

目 標	方 策
・大学入学共通テスト、国公立大二次試験、難関私立大入試の得点力の向上を目指す。	・大学入試問題を幅広く深く分析し、思考力・判断力・表現力を問う問題などを授業・定期考査に反映させる。
・学力スタンダードを活用した教科指導を行う。	・教科会を充実し、授業進度、教材の共通化を図る。 ・定期考査の共通化を図る。
・生徒の学力向上と定着を図る。	・自宅学習を定着させるために、予習・復習及び課題を指示し、小テスト等を実施する。 ・教科、学年、部活動顧問が連携して学習時間の確保に努める。 ・自習室での学習、学習支援教材を活用し、自主的に学習する習慣を身に付けさせる。 ・長期休業日（特に冬季）の補習・講習を充実させる。
・授業改善を推進し、考える授業を展開する。	・主体的・対話的で深い学びを実現する。 ・教員相互の授業参観、研究授業、授業公開を積極的に行う。 ・1時間ごとの授業のねらいを明確にし、分かる授業、考える授業を展開する。 ・指導教諭を中心とした授業力向上のための校内研修を実施する。 ・生徒による授業評価を年間2回行い、評価に基づく授業改善を行う。 ・授業、総合的な探究の時間では、SDGsを基本コンセプトに地域社会とも連携するなど、探究的な活動を充実し、成果を発表する。
・授業時数を確保する。	・チャイム始業など50分の授業を十分に活用した学習指導を行う。 ・土曜授業を年間20回実施する。
・充実した学校図書館教育を行う。	・推薦図書を紹介するなど読書活動を推進し、図書館と教科との連携を図る。

##### ②進路指導

目 標	方 策
・進路指導の充実を図る。	・進路指導部と学年が連携し、キャリア教育の充実を図る。 ・外部人材を活用し、学習環境等を充実させ、個々の生徒に応じた指導を実践する。
・組織的な進路指導を行う。	・進路指導部が進路データを一元管理し、進路指導部と学年・各教科が連携した指導を行う。 ・ケース会議、模擬試験分析会、進路行事の充実を図る。 ・面接指導（二者及び三者）の充実を図る。 ・保護者対象の進路学習会の充実を図る。
・進路自己決定への支援を行う。	・高い目標をもたせ、最後まであきらめない進路指導を行う。

##### ③生活指導

目 標	方 策
・基本的な生活習慣の確立を図る。	・挨拶する、時間を守る、制服を正しく着用する等の基本的な生活習慣の指導を徹底する。 ・ホームルームにおける生活指導を充実する。 ・スケジュール管理のために手帳などを活用した指導を行う。 ・「日野台高校生活スタンダード」を定着させる。 ・下校時間を守らせ、勉強・部活・学校行事の切り替えを日常的に指導する。 ・交通マナー、盗難防止の指導を徹底する。 ・SNS日野台ルールを定着させる。
・生徒の健全育成を図る。	・あらゆる機会をとらえて、生命の尊重と自己肯定感を高め、信頼できる人間関係をつくり、いじめや体罰の根絶に取り組む。 ・教科「人間と社会」や地域交流活動を通じて、社会の一員である自覚を促し、思いやりのある協働の精神を育む。 ・セイフティ教室・人権尊重教育、薬物乱用防止教室などを実施する。
・校内美化に努める。	・ゴミの分別を日常的に行う。 ・清掃活動を充実させ、教室内や廊下などの美化に日常的に努める。

#### ④広報活動

目 標	方 策
・組織的な学校PR活動を行う。	・全校体制で広報活動を展開する。 ・校内及び校外の説明会等の充実を図る。 ・学校案内・ポスターの充実を図り、分かりやすく丁寧な説明を行う。 ・進学塾への広報活動を充実する。 ・ホームページやツイッターを適切に管理・更新し、最新の学校情報の提供を行う。

#### ⑤特別活動・部活動

目 標	方 策
・企画力や運営力を育成する。	・合唱祭や常磐樹祭の学校行事を充実させ、自主性・創造性を伸長させる支援を行う。
・体力の向上を図る。	・部活動の高い加入率を維持し、体力の向上を図る部活動が活発に行われるようにする。部活動などで、地域、近隣学校との連携を図る。
・安全指導を実施する。	・部活動において、事故や怪我が起こらないように十分に配慮する。 ・新入生への安全指導の徹底を図る。

#### ⑥環境・健康・安全

目 標	方 策
・心と身体の健康づくりを推進する。	・全教職員が日常的に生徒の心身の状況を共有し、適切な指導を行う。 ・スクールカウンセラーと連携した、教育相談の充実を図る。 ・生徒理解のための教員研修を充実する。
・省エネを推進する。	・節電、節水、CO <sub>2</sub> 削減など、環境保全や省エネルギーに努める。
・ライフ・ワーク・バランスを推進する。	・「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、部活動指導員等を活用し、週当たりの在校時間が40時間を超える教員をゼロにする。 ・My 定時退庁日を設ける。

#### ⑦経営企画室

目 標	方 策
・積極的に学校経営への参画を行う。	・学校経営支援センターとの連携を強化する。 ・予算の適正執行・適正管理に努める。
・学習環境の維持に努める。	・施設設備の点検・情報収集を行う。

#### ⑧特色ある教育活動

目 標	方 策
・新学習指導要領に向け教育課程を検討する。	・本校グランドデザインに基づき、新学習指導要領実施に向けた教育課程案を作成する。 ・教科会を充実させ、カリキュラム・マネジメントの実践に取り組む。
・主権者教育を充実する。	・公民科の授業やHRにおいて主権者教育の充実を図る。 ・選挙関連の講演会・体験学習を実施する。
・国際教育を推進する。	・国際教育推進委員会と各学年が連携して国際教育講演会や交流会の定着を図るとともに、海外帰国生徒受入を、積極的に教育活動に活用する。
・英語教育を推進する。	・英語力の向上のため、4技能（聞く、話す、読む、書く）の伸長を図る。 ・夏期の語学研修の充実を図る。
・オリンピック・パラリンピック教育を推進する。	・共生社会の実現に必要な「ボランティアマインド」「豊かな国際感覚」の育成など、オリンピック・パラリンピック教育を実践する。
・日本の伝統文化教育を充実する。	・日本の伝統・文化の良さを理解し、日本の良さを発信できる生徒、互いの文化を尊重した交流ができる生徒の育成を図る。
・アクティブラーニングを推進する。	・各教科において3つの学力を確実に伸長させ、主体的・対話的な学びの実現を図る。
・地域等と連携した防災教育を推進する。	・宿泊防災訓練・避難訓練を地域住民や関係機関と連携し適切に実施する。 ・災害時マニュアルを整備し、校内の防災体制を点検し、必要な改善策を講じる。
・学校評価を一層活用する。	・学校評価をより一層学校経営に反映させ、地域社会との連携を深め、開かれた学校づくりの推進に努める。

## (2) 重点目標と方策

### ①【難関大学への合格実績等】

大学入試共通テストの受験者数が290名以上となるよう、諦めさせない指導を継続する。中でも、5教科7科目の受験者数が60名以上となるよう生徒を励ます。また、現役の国公立大学合格者数50名以上、うち難関国公立5名以上、早慶上智理科大30名以上、GMARCH200名以上の合格者数を目指した指導を実践する。

### ②【学校生活の充実度】

学校評価アンケートにおいて、全ての項目において肯定的な回答が80%を超えるよう、分掌・学年・教科・部活動顧問が連携して学校生活の充実に取り組む。

### ③【家庭学習の時間】

学校評価アンケートで、家庭学習時間が1年生2時間、2年生3時間を超える生徒が50%以上となるよう、時間の有効活用についての指導を強化する。

### ④【学校PR活動】

オープンスクール、学校見学、学校説明会などを積極的に広報し、参加者数が7000名以上となり、入学者選抜一次募集で最終応募倍率が1.5倍以上となるよう努める。